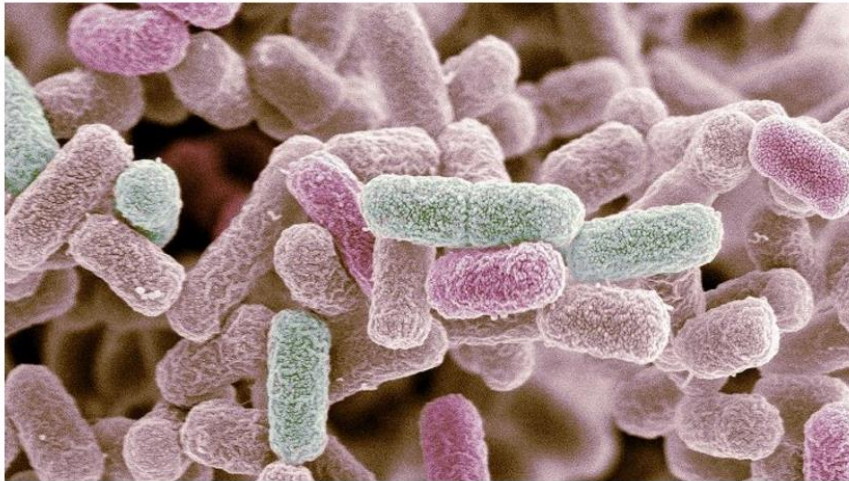


急性出血性腸炎とは

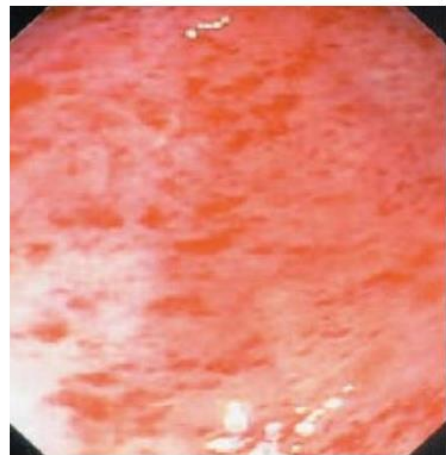
- 抗生物質投与後に頻回の血性下痢を主症状とする腸炎です。抗生物質はペニシリン系が最も多く、その他の抗生剤でも発生します。



- 原因は抗生物質に対する過剰反応や菌交代現象によるものとする説があり、*Klebsiella oxtoca* という菌が関係しているとする報告があります。



- 症状は、抗生物質服用後1～10日で激しい腹痛、水様性下痢を発症し、次第に血性下痢に移行します。
- 大腸内視鏡では、直腸には病変がみられず、S状結腸から盲腸にかけて粘膜面にびまん性の出血がみられます。



- 抗生物質を中止すれば、速やかに治癒します。

